

2021 サマーキャンプ

活動報告書



<掲載内容>

- 7月26日～27日 はじめの一步②
- 7月28日～31日 いえしま Days
- 8月2日～4日 紀州まるごとツアー
- 8月5日～6日 はじめの一步①
- 8月7日～9日 スプラッシュフェスティバル
- 8月10日～12日 夏まるかじりツアー
- 8月7日～12日 ロングアドベンチャー
- 8月14日～17日 淡路島ぐるりんロード
- 8月19日～22日 しまなみロード
- 8月24日～27日 富士山！万歳！！

はじめの一步②

7月26日(月) ~ 7月27日(火)

I N 京都市立花脊山の家

	午前	午後	夜
1日目	施設まで移動	川遊び	キャンプファイヤー
2日目	清掃・野外炊飯	施設を出発・解散	

一日目: 夏キャンプ第一回目として、最高の天気のもと開催となりました。今回は貸しきりバスにて施設へ向かいました。初めは緊張や不安でおとなしかったメンバーが多く、車内は静かでしたが、徐々に交流を増やしていくにつれ、後半はとても賑やかな車内でした。初日のプログラムは川遊びですが、その前に昼食を済ませました。川遊び出来る格好に着替え、待ちに待った川遊び!! 誰もが躊躇なく、我先にと川に進みました。静かに遊ばれているところに水を掛けられると、飛びつきの笑顔でやり返されていた様子が印象的でした。川遊び後、施設に入所し、施設の使い方を職員の方から聞きました。そして一泊過ごすロッジに入ると、早速寝る場所などを決めたり、ロッジ内を探検されたり、おおはしゃぎでした。夕食後は最後のプログラムであり、みんなが楽しみにされていた“キャンプファイア”です。リーダー達が盛り上げてくれるレクリエーションに照れながらも楽しそうにされていました。ファイア開始は日も落ちておりませんでした、終わる頃にはキレイな星空を見る事が出来ました。



二日目: 昨日、存分に楽しめたようで起床時間までしっかり休まれました。起き次第、身支度を整え、朝食作りに向かいました。朝食は定番の“パックサンド”です。定番といっても、ほとんどのメンバーが初めてなので、一つ一つの行程を楽しそうにされていました。味はもちろん保証付きで美味しく、ペロリと2つをたいてあげておられました。食後は清掃を済ませ、最後のプログラム“野外炊飯”です。こちらほとんどの方が初めてで、【野菜切り】、【火起こし】、【米研ぎ】、どれも『はじめの一步』であり、ふざけることなく一生懸命に取り組まれました。担当していた係が早く終わった方は、何かお手伝い出来ないか探されている姿も伺えました。みんなで力を合わせたカレーの味は絶品で、どのグループも完食されていました。片付けは少し手間取ってしまい時間がかかりましたが、最後まで力を合わせてやり遂げました。あっという間の一泊二日、全てのプログラムを終えると緊張が解けたのか、お疲れの色がチラホラ見えていました。施設へ挨拶を済ませて、出発しました。帰りの車内は皆休まれて、静寂の中、帰路に付きしました。



<キャンプ総括>

今回のはじめの一步は、定例会員も経験者もおられず、皆“はじめて”参加の方々がお集まりいただいた、正に【はじめの一步】でした。キャンプのシステムや流れをグループの中でリードされる方もおられず、当初は正直やりたい放題の様子でした。しかし、そうした中でも、いち早くキャンプとしての集団行動に対して気付き、意識される方がおられ、その方々が自然とリードされる様子が伺えました。主導される方が、グループを呼んだり、整列させたり、意見を聞き、グループを動かそうという姿勢にとっても嬉しく感じました。そうした“気付き”、“想い”が広がり、初日の夜には気が付けば、集団行動されていました。一つのものに皆で向かう道中で、今回のような主導性が現れるのは、まさにキャンプの魅力であり、目的です。ご参加いただきましたメンバー皆様にとって、今回の経験がご成長のきっかけとなり、大きな糧となる事を願っています。(竹中 哲郎)

いえしまDays

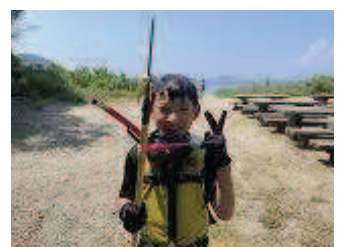
7月28日(水) ~ 7月31日(土)

IN 兵庫県立いえしま自然体験センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	オリエンテーション <島での過ごし方>	振り返り
2日目	オリエンテーション <魚の獲り方について>	自給自足生活	振り返り
3日目	自給自足生活	自給自足生活 いかだレース	振り返り
4日目	清掃	施設を出発・解散	

一日目： 台風の心配がありましたが、問題なく開催することが出来ました。電車、バスを乗り継いで、姫路港へやってきました。眼前に見える海に歓声が上がりました。船に乗ると、早速展望デッキに上がり、潮風を体いっぱい感じ、気持ち良さそうでした。島に到着し、頑張って丘を越え、施設が見えてきました。昼食を済ませると、午後からはオリエンテーションを行いました。施設利用上の注意事項や、海遊び、島暮らしのルールの確認をしました。その後は[貝捕り]を行いました。見たことのない種類の貝ですが、「美味しそう～」という声が聞けました。捕った貝を使って味噌汁を作りました。初めて貝からとった出汁に感動されていたのが印象的でした。夜は翌日の島暮らしの予定を組みました。何が出来るとかワクワクしながら一日を終えました。

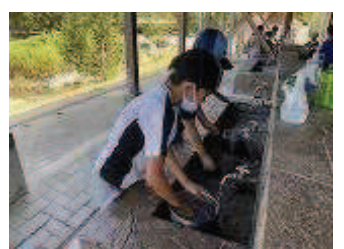
二日目： 二日間は自分達で考えた島暮らしが始まります。午前中からグループごとに異なっており、海釣りに行ったり、貝集めに行ったり、“ヤス”で魚を捕まえに行かれたりしました。ヤスで魚を捕らえる事は皆初めてで、シュノーケルの使い方、ヤスの注意事項を聞き、いざ本番！！魚はそんなに甘くなく、簡単に成功はしません。しかし、根気強く海中を漂っていると「やったー！！」という声が浜中響き渡りました。捕まえた時の笑顔はとてもキラキラされていて、本当に嬉しそうだったのが印象的でした。今日の昼食から配給された食材と捕ってきた食材を使って料理を作っていきます。まだまだ不馴れな様子で、火起こしや切る作業に苦戦されていました。午後から釣りをされるグループがありました。こちらも初体験の方が多く、釣り針や餌を付けるだけでも難しく、友達と協力して行っておられました。釣りをされている時、「あそこにいる！！」と自然と声を掛け合っておられる姿がとても微笑ましかったです。夕飯になると昼食の行程を参考に、動きに工夫が見られました。時間のかかるものから優先的に動かれたり、係に割く人員を考えたり、それだけでも大きな成長を感じました。今晚から振り返りをさせていただきました。自分達のグループは“楽しさ”、“笑顔”、“忍耐”、“頑張り”、“優しさ”、“声掛け”がどれだけ出来ていたかを数値で表し、グラフにさせていただきました。また各項目のMVPも決めていただきました。今回惜しくも選ばれなかった方は悔しそうにされていました。是非ともその気持ちを明日に繋げていただきたいと思います。



三日目： 朝から「〇〇しよー！！」という元気な声が聞こえてきました。朝食前からプログラムを一つ行おうとするグループがある程、やる気いっぱいの様子でした。朝食を済ませた後は、各々分かれて活動を展開されました。【ストーンペインティング】をされるグループがありました。拾ってこられた石にこのキャンプの思い出を描き、それぞれを発表されていました。あるグループは調理時間が長くなってしまうので、11時前には料理を始めておられました。昼過ぎからは共通プログラムとして【いかだレース】を行いました。2グループに分かれていかだを組み立て、豪華食材をかけて争いました。作り方の基礎を施設の方から教えていただきましたが、それでも完全に作ることは出来ないため、いざ海に浮かべると部品が次々と離れていきました。それでも声を出し合って一生懸命漕がれている姿に、心から楽しんでいる事と本気で挑まれている姿勢に嬉しさと感動を感じました。夕飯までの時間は各々予定を変更し、存分に海遊びを行いました。夕飯はいかだレースで獲得した食材を活かしたメニューにされており、作る手間も大分と工夫、改善されていました。自然と役割を分担され、どのグループも美味しそうなメニューを完成させていました。夜の振り返りでは、いかだレースでの頑張りや炊飯の際の手際の良さなどについて話し合われていました。



四日目： 朝から帰る作業に勤しみました。荷物の整理、部屋の清掃、借用備品の洗いなど、やることが沢山あります。初日は何をしたらいいのかわからず、指示を待っている方が多く見受けられましたが、最終日の片付けの際は、率先してやることを見つけ、次々と完了させていく姿から確かな成長を感じました。特に鍋の焦げ付き取りは面倒で、終わりの見えない作業にも関わらず、嫌な顔一つせず、黙々と行われている様子は大人顔負けで、とても立派に感じました。全ての片付けが終わる頃にちょうど昼食の時間となりました。昼食は初めて最後の食堂利用です。誰もが一口入れた瞬間、これまでに見せたことのない笑みを浮かべ、「美味しい！！」と喜んで食べておられました。そして、ついに施設を離れる時がきました。行きはしんどそうな顔付きで丘を越えておられましたが、帰りは疲れは見えるもの、しんどそうにされている方はおられず、声を掛け合い、楽しそうにされて、遅かったです。帰りの船内では休まれている方、最後まで元気に潮風を感じておられる方、各々過ごされていました。姫路港に到着し、各集合場所に戻られました。



<キャンプ総括>

昨年、コロナの影響で開催を見送った為、二年ぶりの開催となりました。いえしまのプログラムは“特にありません”。自分達でやることを考えられる為、『自由』です。自由という言葉は本当に残酷で、一見嬉しい言葉かと思いきや、行動、発言、一挙一動に『責任』が伴ってきます。その厳しさを体感していただくキャンプが【いえしまDays】です。キャンプ途中で責任放棄される方がおられました。すると自由が制限されます。このキャンプを通じて『自由＝責任』を理解し、その難しさを痛感し、一段大人の階段を登っていただけたのではないのでしょうか？また、来年一段上がるために是非ともご参加をお待ちしております。

(竹中 哲郎)

紀州まるごとツアー

8月2日(月) ～ 8月4日(水)

IN 和歌山県立潮岬少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発 白良浜遊び	石拾い 施設到着	夕飯づくり 振り返り
2日目	くじらの博物館見学	イルカスイム体験	お楽しみタイム 振り返り
3日目	清掃・施設出発	お土産購入タイム メロン狩り・食べ放題	

一日目： 今回もキャンプ日和のもと始まりました。行きの車内から皆のテンションは高く、元気いっぱいです。初めの目的地、メロン狩り農園に到着しました。ビニルハウスに実った美味しそうなメロンを自身で切り取りました。今すぐは食べられないですが、食べ頃を迎えるのがとても楽しみです。このあとはお楽しみのメロン食べ放題です。冷えた食べ頃のメロンはとても甘く、何個もおかわりされていました。お腹の調子が心配な方もおられましたが、皆お腹いっぱい満足そうにされていました。施設に向かう途中で“志原海岸”というところに寄りました。こちらの石は海流の関係から全て丸く削られており、キレイな形をしています。今日と明日の夜の振り返りに色を塗る為の石を選び取りました。そして夕方過ぎに施設に到着しました。さすがに疲れの色が見えていましたが、楽しむ元気はあるようです。夜の振り返りは拾ってきた石に思い出を描きました。メロンだけではなく、海のキレイさを思い出にされている方もおられました。

二日目： 朝食作りから一日が始まりました。朝食はお馴染みの“バックサンド”です。具材を挟み焼く作業を知っているメンバーが、「こうするんだよ。」と教えている姿からしっかりと過去の経験が伝わっていると認識しました。朝食後、準備を済ませると、遠足に出発です。みんなが楽しみにされていた【くじらの博物館見学】と【イルカと一緒に泳ぐ体験】です。グループごとに分かれて行きました。イルカ体験は間近で見るイルカの大きさに驚き、たじろむ方もおられましたが、イルカの優しさに徐々に慣れ親しみながら、最後は一緒に泳がれていました。初めから積極的に関わろうとされる方は、何度もイルカに接近し、一緒に泳がれていました。くじらの博物館は、鯨漁の歴史や鯨の生体についてを標本や模型を通して学びました。屋外では、鯨やイルカのショーを楽しんだり、餌やりを見学したり、紀州に生息している生き物を見たりしました。最後に博物館でお土産を購入され、大満足の様子でした。施設に戻る道中では、ほとんどの方が休まれています。本日の夕飯はみんなで手分けして作る、「色々丼」です。【麻婆豆腐】、【豚キムチ】、【焼き鳥】のパートに分かれ作りました。どれもご飯のお供として最高なので、食べ終わっては何度もおかわりをされていました。夜の振り返りでは描くことが多すぎて、2つ描かれている方もおられました。

三日目： 朝は疲れから皆熟睡されており、ゆっくりと起きてくれました。片付けと朝食を済ませ、本来ならばすぐに白良浜へ向かうのですが、少しキャンプ全体で話し合う事になり、そこに時間を費やしました。プログラムを楽しむだけがキャンプではないので、疲れからしんどい時間でしたが、頑張ってくださいました。予定時間が大幅に遅れましたが、施設を出発し、白良浜へ向かいました。車内は話し合いから暗い雰囲気でしたが、浜に到着すると、気持ちを切り替え、存分に楽しまれています。短い時間でしたが、海水浴を堪能されたようで、戻ってくる表情は明るさを取り戻されていました。そしてキャンプ最後の寄り道、“とれとれ市場”に到着し、お土産を購入されました。「家族のために…」という声を沢山伺え、メンバーの優しさを感じました。帰路は沢山の体験から熟睡されている方や、DVDを鑑賞されている方、最後まで元気に談笑されている方がおられました。親御さまにお会いするとホッとしたような顔が見られました。



<キャンプ総括>

紀州まるごとツアーにご参加いただきありがとうございました。当キャンプは他のキャンプと大きく異なり、紀州の魅力を感じていただく為に、数々の箇所を巡り、楽しんでいただきます。故に【キャンプ】という感覚が薄れてしまい、【観光】という認識を持たれてしまいがちになります。まさに今回それに大きく悩まされました。キャンプにおいて大切にしている事は、「自分の事よりみんなの事を考えているか」です。今回メンバーの意識には「楽しみたい!!」気持ちが大きく、周りを見て考えて動いたり、発言されたりする事に何度も指摘、指導を受けていました。正直、指導側の私もしんどくなる程、訴えていましたので、受ける側は本当に辛かったと思います。ご本人達の頑張りはもちろんですが、我々もそのような仕向ける環境作りにおいては重責を感じます。少しでも【楽しい気持ち】が割合を占められるように今回の経験を考慮し、反省し、努めて参ります。是非とも、次年度もご参加いただければ幸いです。ありがとうございました。

(竹中 哲郎)

はじめの一步①

8月5日(木) ~ 8月6日(金)

I N 京都市立花脊山の家

	午前	午後	夜
1日目	川遊び	川遊び・施設まで移動	キャンプファイヤー
2日目	清掃・野外炊飯	施設を出発・解散	

一日目: 天候にも恵まれ、絶好のキャンプ日和となりました。各々の集合場所から、バスに乗り、最初の活動場所である賀茂川を目指しました。全員が集合を終え、まずはドキドキのグループ発表タイムです。二日間共に過ごすお友達と対面し、自己紹介をしてお互いの事を知ります。「よろしくね!」と挨拶を交わしたら、グループで輪になって、昼食のお弁当をいただきました。食べ終わったら、早速水着に着替えて川に入る準備を行いました。荷物の出し入れをすると、中が混在したり、あるはずの物が見当たらなくなったりといった事が起こりますが、この二日間は自分で荷物整理など身の回りの事を行わなければいけないので、皆頑張って水着や着替え、タオルを準備されていました。着替え、準備体操を済ませたら、いよいよ川遊び開始です。水掛け合いをしたり、もぐったり、生き物を探したり、グループごとで思い思いに川遊びを満喫しました。川遊びを終え、着替えを済ませ、宿泊施設に向けて出発しました。施設に到着し、まずは施設の方からオリエンテーションを受け、この日の夕食は食堂でいただきました。美味しいご飯でお腹いっぱいになったら、お待ちかねのキャンプファイヤーです。リーダーが行うレクリエーションを楽しみ、沢山声を出して、大いに盛り上がりました。お風呂に入って汗を流したら、各グループで部屋に戻り、就寝準備に入りました。一日の疲れが一気に出てきたのでしょう、布団に入るとすぐに就寝されました。



二日目: 二日目の朝ご飯は、パックサンドです。リーダーの説明をよく聞いて、パンにハムやチーズをサンドして作っていきます。牛乳パックに火をつけ、自分で回しながら上手に焼いて作った朝ご飯を、皆美味しそうに頬張っておられました。一日のエネルギーを満タンに出来たら、宿泊棟に戻って部屋の清掃を行い、隅々まで綺麗にしました。そして再び野外炊飯場に集合し、昼食作りに入ります。メニューはみんな大好き、【カレー】です!“野菜係”、“かまど係”、“ご飯係”に分かれて調理を行います。野菜係は、野菜とお肉を分担して切り、ご飯係は皆で持ち寄ったお米を丁寧に研ぎます。かまど係は火起こしに挑戦です!どのグループも見事火が付き、その火で美味しそうなカレーとご飯が出来上がりました。沢山動いてお腹ペコペコなメンバー達、あっという間に鍋が空っぽになりました。お腹が満たされたら、片付けもグループで協力して行います。大変な焦げ落としも、何度も磨くとピカピカになりました。片づけを終えると、いよいよお別れの時間が近づいてきます。施設を出発する前に参加者全員で記念写真を撮りました。お世話になった施設に別れを告げ、バスに乗って帰ります。最後に京都駅にて、またいつかどこかで再開できる事を願い、「まったねえ~」と挨拶をして、それぞれの帰路に就きました。



<キャンプ総括>

この度は、“はじめの一步”にご参加いただき誠に有難うございました。今年も無事に、キャンプを開催することが出来、沢山の参加者皆さんの笑顔に出会えた事が何より嬉しいです。このキャンプの参加者の多くがはじめましての人と集団で宿泊する事が初めてです。親御様にとって心配されるお気持ちの中、キャンプへお子様を送り出されている事と思います。二日間はとてもあっという間で、その中でお子様が急成長されるという事はなかなかありません。しかし、我々はその成長への“第一歩”をこのキャンプで踏み出していただきたいと願い、プログラムの企画・運営を行っています。このキャンプに携わるリーダーも、一人一人の頑張りを傍で見守り、本人にお伝えするようにしています。初めての環境の中で、参加者様が「出来た!」、「頑張った!」と実感される体験は、その後も心に残ると思います。そういった経験を通して、普段の生活に『生きる力』を育てていけるような活動を今後も行ってまいりたいと思います。

(生田 千恵)

スプラッシュフェスティバル

8月7日(土) ~ 8月9日(月)

IN 国立曽爾青少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	水鉄砲大会	作戦会議
2日目	野外炊飯、フェス準備	スプラッシュフェスティバル	キャンプファイヤー
3日目	清掃・思い出工作	施設を出発・解散	

一日目： 各集合場所から尼崎へ集まってきました。全体集合では、“ロングアドベンチャー”と合同で行ったため、とても大人数でした。挨拶、グループ分けを行い、早速曽爾高原へ出発しました。バスの車内では、自己紹介をしたり、レクリエーションをしたりと賑やかな声が聞こえてきました。施設に到着する頃には仲が深まっておられる様子でした。前日までの雨天の影響で川遊びは出来ませんでしたが、二日目に行うスプラッシュフェスティバルの会場で水鉄砲大会を実施しました。「二日目の練習が出来る！」と多くのメンバーがモチベーションを高く持たれていました。各部屋で着替えを済ませたら、いよいよ水鉄砲大会の開幕です。相手グループのポイを狙い撃ち、味方がたくさん生き残れば勝ちです。三つのグループを同時に行いました。待ち時間に作戦を考えたり、準備をしたりとそれぞれのグループで有効に時間を使っていました。作戦もグループ毎に異なり、相手を待ち伏せしたり、散らばって沢山攻撃をしたりと、白熱した水鉄砲大会になり明日の本番が今から楽しみです。水鉄砲大会を終え、部屋に戻り、着替えと入浴準備を済ませました。今日の夕食は食堂でいただきました。夕食とお風呂を済ませたら、夜は明日のチーム分けと作戦会議を行いました。今回のスプラッシュの色は【赤・青・黄・緑】の四色です。色はくじで決定し、男女混合の4チームが結成されました。今日の水鉄砲大会を振り返り、フェスの詳しいルールを皆で確認しました。諸々進めていくにつれ、皆の顔も真剣モードに変わっていきました。



二日目： 朝から大忙しです。スプラッシュ恒例の“朝カレー”を作ります。グループで【ごはん係・かまど係・野菜係】に分かれ、カレー作りを進めていきます。グループで力を合わせてカレーを完成させました。しっかり食べて、力を蓄え、本日の決戦に備えました。食べ終わったら、器材の片付けも行います。この後の活動が盛沢山なので、手早く進めていきます。昼食までの時間を使い、チームのユニフォームを作成しました。チームごとに色を分け、グループで統一したオリジナルのユニフォームの完成させました。食堂で昼食を済ませたら、作ったユニフォームに着替えて、決戦会場に移動しました。決戦会場に着いたら、チームごとに準備を進めます。チームの旗を作成したり、陣地の確保をしたり、色水を作ったりと決戦に向けて着々と準備が進むにつれて、ワクワクが止まらない様子が見られました。全チームの準備が整い、いよいよスプラッシュフェスティバルの開幕です。スタートの合図と共に、色水の打ち合いが始まりました。スタートと同時に駆け出すチームや、固まって木影から狙うチーム等、昨日の作戦会議が活かされていました。二回戦目行う前に休憩を挟みました。休憩中は、一回戦目を参考に更に作戦

を練ったり、色水の補充・準備をします。二回戦目は、慣れてきたのか一回戦目よりも白熱した打ち合いが繰り広げられていました。時間ギリギリまで大盛り上がりでした。結果は、翌日発表です。決戦の後は皆で片付けをしました。片付け後は、部屋に戻り、着替えを行いました。夕食を食堂で済ませ、入浴後は、皆がお待ちかねのキャンプファイヤーを楽しみました。リーダーが用意したレクリエーションで就寝時間ギリギリまで盛り上がり、二日目を終えました。フェスの結果が気になり、眠れないという声も聞こえてきましたが、布団に入るとすぐに寝息が聞こえてきました。



三日目： 最終日の朝は部屋の清掃から始まりました。三日間お世話になった部屋を皆で協力して、【来た時よりも美しく】を目指し、綺麗にしました。清掃後は朝食作りに向かいました。三日目の朝食は、キャンプの定番の“パックドック”を一人ずつ作り、いただきました。朝食後は、思い出工作を行いました。今回の思い出工作は、“キーホルダー”です。丸太をやすりで削り、オリジナルのキーホルダーを作りました。丸太には、このキャンプでの思い出の絵を描き、金具を付けたら完成です。それぞれの個性豊かなキーホルダーが完成しました。皆が完成すると、いよいよ結果発表の時間です。第二回スプラッシュフェスティバル優勝は、『赤チーム』でした。優勝チームには、賞品としてスプラトゥーンのハンカチを贈呈されました。。食堂で昼食を済ませ、施設の出発の時間です。バスで尼崎へ向かいます。尼崎で皆と最後のお別れをし、それぞれの解散場所へ出発しました。また、皆と第三回スプラッシュフェスティバルで会えることを約束して…。



<キャンプ総括>

この度は、“スプラッシュフェスティバル”にご参加いただき誠にありがとうございました。昨年よりも多くの方々にご参加していただき、大いに盛り上がったキャンプとなりました。今年は場所を変えて、ルールや装備について、より付け加え、パワーアップして行いましたが、実際に行ってみると十分に改善の余地があると感じました。このキャンプは、【スプラトゥーン】というゲームを模して行っております。少しずつですがゲームに近づいているとの実感はあります。今年の反省を活かし、更に皆様に満足していただけるものをお届け出来るようにしていきます。そのように思う理由として、今回ご参加いただいた皆様から「また来年も行きたい!」と多くの声が上がったからです。この“スプラッシュフェスティバル”をより進化をさせ、毎年ご参加頂く度に皆様に満足していただけるキャンプへ成長させていきます。ぜひ、来年もスプラッシュフェスティバルへの挑戦をお待ちしております。

追伸

来年に【スプラトゥーン3】が発売されるらしいので、そこからも大いにヒントを得て、より素敵なキャンプを実施致します。

(橋本 里佳)

夏まるかじりツアー

8月10日(火) ～ 8月12日(木)

IN 国立曽爾青少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	名札づくり・レクリエーション	ナイトハイク
2日目	野外炊飯	選択プログラム	キャンプファイア
3日目	清掃・思い出工作	施設を出発・解散	

一日目： おはようございます！各集合場所からJR尼崎駅へ集まり、お見送りに来られた親御様に挨拶をし、バスに乗り込み、出発しました。車内では自己紹介から始まり、徐々に談笑される声が聞こえて来ました。本来なら施設の手前にある川で川遊びの予定でしたが、悪天候の影響で川遊びを断念し、室内でのレクリエーションに変更しました。まずは名札作りから始めました。完成した素敵な名札を首から下げ、これで名前も完璧に覚えられます。じゃんけん大会やダンスをしたり、グループ対抗のしっぽ取りをしたり、時間の許す限りレクリエーションを楽しみました。レクリエーション後は宿泊棟に移動し、夕飯までの間で就寝準備を進めました。初めてのベッドメイキングに悪戦苦闘されている様子が見られました。その中でグループのメンバー同士で自然と助け合いをされていて、グループとして関係性が早くも出来上がっていると感じました。食堂で夕食を済ませ、入浴後はナイトハイクへ出かけました。少し曇っていたため、星はあまり見えませんが、昼間よりも涼しさを感じたり、虫の音が聞こえてきたりと昼とは違う夜の自然を感じる事が出来ました。部屋へ戻り、盛沢山の活動に疲れもあったのか消灯後すぐに寝息が聞こえて来ました。



二日目： 朝から元気な足音がたくさん聞こえて来ました。朝ごはん作りからスタートします。メニューは、牛乳パックを使った「パックドック」です。出来上がったパックドックを大きな口で頬張る姿から、美味しいということが十分に伝わってきました。朝ごはんを片づけた後は、早速昼食作りです。内容はキャンプ定番の「カレー」です。【かまど係】、【野菜係】、【お米係】に分かれて、美味しいカレーの為に力を尽くしました。苦労して出来上がったカレーは格別で、何度もおかわりをされ、どのグループも完食することが出来ました。野外炊事は片付けが大変です。特に鍋のスス落としはどのグループも苦労しておられました。片付け後は「グループタイム」を行いました。各部屋で休息をしたり、体育館で体を動かしたり、施設近くの山を登ったりと、各グループ夕食までの時間を過ごしました。夜は楽しみにされていたキャンプファイアの時間です。リーダーが用意してくれたレクリエーションを楽しみ、最後は皆で練習したダンスを踊りました。終わりを惜しむほど、大いに盛り上がりました。



三日目： 最終日の朝は、掃除から始まりました。お世話になった施設に感謝を込め、一生懸命に掃除をしました。清掃後は、食堂で朝食をいただきました。朝食後は、「思い出工作」を行いました。自身でバーナーを使って板を焼くのですが、初めてのバーナーを使う事に戸惑いを見せておられましたが、リーダーが見守る中、頑張ってそれぞれ味のある焼き加減に焼き上げることが出来ました。焼き板のススをたわしでしっかり落とし、キャンプの思い出の絵を描きました。昼食を済ませ、帰りのバスに乗る準備をします。施設の出発を惜しむメンバーもおられました。お世話になった施設に別れを告げ、尼崎駅へのバスに乗り込みます。疲れから休まれているメンバーも多くいました。



<キャンプ総括>

この度は、「夏まるかじりツアー」にご参加いただき誠にありがとうございました。昨年よりも多くの皆様にご参加いただき、このキャンプがとても人気なことを身をもって感じました。夏まるかじりは【ザ・キャンプ】です。特別な内容ではなく、キャンプで思い浮かぶ内容を行うからこそ、キャンプの醍醐味、グループ活動の醍醐味を感じていただけるのではないかと思います。このキャンプでデビューをし、他のキャンプに挑戦される方が多くいらっしゃいます。ぜひ、今回ご参加いただきました皆様に、これを機に様々なキャンプへ挑戦して欲しいと思います。また、皆様にお会い出来る日を楽しみにしています。

(橋本 里佳)

ロングアドベンチャー

8月7日(土) ~ 8月12日(木)

IN 国立曽爾青少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向けて出発	水鉄砲大会	振り返り・スタンツ練習
2日目	野外炊飯	野外炊飯・グループタイム	振り返り・スタンツ練習
3日目	登山	登山	ナイトハイク
4日目	休憩	秘密基地づくり	振り返り・スタンツ練習
5日目	グループタイム	グループタイム	キャンプファイア
6日目	清掃・思い出工作	施設を出発・解散	

一日目： 少し不安定な天候な初日ですが、メンバーのテンションは上々で、元気よく尼崎を出発しました。施設に到着し、本来は川遊びの予定でしたが、前日の雨の影響で出来ない為、同時開催している“スプラッシュフェスティバル”のプログラムに寄せていただき、水鉄砲大会を行いました。川遊びは出来ませんでした但有意義に過ごすことが出来ました。その後は施設の使い方の説明を受け、食堂にて夕飯をいただきました。夜のプログラムは【キャンプの過ごし方】についてみんなで話し合いました。「家族のように過ごして欲しい」を合言葉に六日間頑張ってくださいます。また、五日目のキャンプファイアに向けて、【スタンツ(出し物)】を決めてもらいます。空き時間や、毎夜に頑張ってくださいますので、当日本番が楽しみです。



二日目： 今日は一日屋外で調理の日です。朝食はカレー同様、定番の“パックドッグ”です。キャベツを千切りにし、ソーセージを詰め込みいただきました。少し焦げてしまった箇所もありましたが、口いっぱい頬張りながら美味しく食べておられました。朝食が済むと続けて野外炊飯の“カレー”に挑戦しました。何度か経験のあるメンバーもおられ、スムーズに進みました。かまどの火起こしについては皆で理屈から再確認をしました。話を終え、火付けに入るとどのグループも一回で成功し、喜ばれていました。予定通りの時間でカレーが完成し、量も考えておられたので、全グループ完食されていました。カレーの片付け後は、スタンツ練習とレクリエーションを行いました。久々にカー杯走り回り、いい汗をかいたと思います。夜は天候の関係から、スタンツ練習と振り返りを行いました。皆「曽爾の星を早く見たい!!」と仰っていました。夜空がとても恋しいです。



三日目： 昨日の野外炊事の片付けの仕上げから一日が始まりました。昨日までは率先して作業に取り掛かる方と、ついサボってしまう方との差が見えていましたが、今朝の動きは全員が声を出し、協力しあっている姿が伺えました。片付けを完了させると今日のメインプログラム【登山】に向けて準備を進めました。ただ登るのではなく、各グループで目標を定めいただきました。それを登山中、持ち続け、いつでも確認していただけるようにしました。目標を定め、準備が整い、出発です!! 今回のルートはそこまで激しい山ではないので、その分沢山会話をさせていただきました。中盤以降、皆が疲れてきたら声を掛け合い、「頑張れー!」が山中に轟いていました。途中で食べたおにぎり弁当はとても美味しく、沢山おかわりされていました。昼食後、もうひとつの山頂を目指しました。距離はそこまで遠くないため、疲れはありますが、皆元気です。曽爾高原を一望出来る亀山山頂は、吹き飛ばされるぐらい風が強かったですが、壮大さに感動されていました。無事に下山し、その後のご褒美アイスに皆最高の笑顔を見せていました。夕飯後、なんとか天候も落ち着いたので、ナイトハイクに出掛けました。日中とは違う夜の高原に少しオドオドされながらも、夜の



澄んだ風の音や葉がすれる音を感しました。施設に戻り、入浴を済ませ、布団に入るとすぐに寝息が聞こえてきました。

四日目： 起床後、四日目ということと登山後ということもあり、メンバー皆から疲れが見えていたので予定を変更し、午前中は休息としました。休み時間を有効に使われており、ベッドで休まれたり、スタンプの話し合いをしたり、談笑されたりして過ごしました。昼食は焼きそばを食べ、午後からは【秘密基地】を作りました。「秘密の場所で作る」事をルールとし、どのグループも森の中に、他のグループが分からない場所に作りました。翌日は一日、基地で過ごしてもらうので、頑丈にしっかりとつくりました。夜からは翌日の夕食までグループタイムです。これまで沢山のプログラムをしてきましたが、残り一日半はゆっくりグループのペースで過ごしていただきます。



五日目： 朝からグループごとに考えて行動しました。朝食作りから各々考えて自分達に合った動きをされました。朝食は二日目につくった“バックドッグ”です。一度経験があるので、手際がよく、難なく作られていました。おかわりをされる方が沢山おられ、メンバーの体力の多さに驚きました。朝食後は昨日作った秘密基地へ向かい、各々過ごしました。談笑を楽しんだり、スタンプ練習をしたりされました。昼食のカレー作りもお手の物で、担当を速やかに分かれ取り掛かりました。味も二日目より美味しく、どのグループも残さず完食されました。片付けを済ませ、秘密基地の撤収を完了させ、スタンプの最後の詰めを行いました。最後の夕飯は食堂で、楽しく時間を過ごしました。夜のプログラムはスタンプ発表の舞台である“キャンプファイア”です。これまでに何度も話し合い、練習されてきた成果を見せていただきました。演劇やあるあるネタ、キャンプに沿ったネタなどを披露されました。やる側も見る側も一体となり、とても温かい雰囲気の中、実施することが出来ました。最後にキャンプを振り返り、今回のキャンプで得たものを皆で確認しました。寝る前に色々と思い出され、感極まった方もおられましたが、就寝時間になるとすぐに部屋から寝息が聞こえてきました。



六日目： 朝から片付けの為、忙しく動きました。ロングのメンバーにとって片付けは何度も行ってきたので、こちら側から指示を出さずとも動いている方も沢山おられました。朝食を済ませ、最後のプログラム、“思い出工作”です。グループ人数分のコースターを一人ずつ作成し、そこにグループメンバーの名前と一言を書いて贈ります。皆、一人一人に感謝の言葉や嬉しかった事、楽しかった事を書いておられました。そして贈る時に、直接感謝の言葉を添えて贈りました。嬉しそうな表情や照れ臭そうな表情が伺えました。最後の昼食を済ませるとついに出発です。帰りの車内は、行きとは大きく異なり、最後の最後までメンバー同士、談笑されていました。解散時も「またねー！！」と元気よく手を振る姿が見られました。



<キャンプ総括>

今回のロングアドベンチャーのテーマとして、【家族のような仲間】を訴えてきました。年齢、性別、学年隔たりなく接し、年上は年下のメンバーの面倒を見、年下は年上のメンバーに追い付こうと必死に食らい付く、そのような関係作りを行いました。キャンプ序盤は年上と年下の間になんとなく壁があり、コミュニケーションは特定の方としかされませんでした。日が経つごとに隔たりなく接している様子を伺えました。メンバーがキャンプ中に困っていたり、寂しがっていたりしていると、「元気出せよ！ブラザー！！」と言い、友達に勇気を与えている様子に感動を覚えています。ゆえに仲間の事に対して、本気で心配し、嬉しく思い、哀しみ、苛立つ。今回皆さんが形成されたグループは本当に家族のように温かく、真剣に取り組まれていたと感じました。是非とも来年もお会いし、再開の感動を分かち合いましょう！！

(竹中 哲郎)

淡路島ぐるりんロード

8月14日(土) ～ 8月17日(火)

IN 国立淡路青少年交流の家、民宿『西田荘』

	午前	午後	夜
1日目	淡路島に向けて出発 ぐるりんスタート	ぐるりんサイクル 施設到着	振り返り
2日目	グループタイム	レクリエーション大会	振り返り
3日目	ぐるりんサイクル	ぐるりんサイクル 民宿到着	BBQ・振り返り
4日目	ぐるりんサイクル	淡路島を出発・解散	

一日目： 悪天候の為、一日遅らせて開催致しました。朝から雨模様ですが、皆はやる気十分で、誰一人文句を言われる事なく意気揚々とされていました。明石駅に到着し、今回使用する自転車を借り、明石港からフェリーに乗り、淡路島へ向かいました。淡路の空はそこまで悪天候ではなく、天気は我々に味方しています。今回は初日に施設まで向かいます。走り始めたメンバーは雨にも負けず、前だけを向いて走っていました。雨というコンディションが逆にメンバーの真剣さを引き立て、誰一人ふざける事なく走る姿から「彼らなら出来る」と感じさせられました。予定より早く洲本市を越え、南あわじ市に入りました。途中の休憩ポイントでは、「足が…」と嘆いている方もおられましたが、それでも頑張って漕いでおられました。そしてついに目的地の施設に到着しました。感動よりも疲れが勝っているようで、大喜びとはいきませんでした。表情は晴れやかでした。夕飯を済ませると一日の振り返りです。自分達のグループはどうなりたいか、どこに向きたいのかを話し合いました。毎夜行うので、しっかり、深く話し合っていました。



二日目： 昨夜はぐっすり休まれたのでしょう、朝から元気な声が聞こえてきました。朝食は野外炊事の“カートンドッグ”を作り、いただきました。午前中は疲れを取るためにお休みとし、振り返りの続きをしたり、休んだり、談笑したりして過ごしました。体を動かしたい方もおられたので、午後からは“ポートボール”を行いました。汗いっぱい流してクタクタになるまで動き回りました。少し休憩を挟んで、皆で【焼きそば】を作りました。焼きそばはテンポが大切なので、グループ内で係を分けて行いました。切って、炒めて、盛り付けて、と焦げないように美味しく調理しました。夜は昨夜同様、振り返りです。昨夜に決めた内容から、更に良くするために新たな目標を設定しました。明日はそれを掲げて、後半走り出します。



三日目： 今日から後半がスタートします。朝から多少の疲れは見えますが、走る気持ちは十分にあり、早く走りたいと訴えておられました。朝食を済ませ、振り返りの確認をしたら出発です。今回は距離としてはさほど遠くはないのですが、山と丘を越えなければならないので、踏ん張り所です。急な坂に差し掛かった時、遅れそうなメンバーに向けて必死に声掛けをしたり、荷物を代わりに持ったりして助け合う姿が見られました。“道の駅うすしお”にて昼食を済ませると、残りもあと少しです。どちらのグループも弱音を吐くことなく走り続けました。そして、この日の目的地である、【西田荘】に到着しました。かなりお疲れの様子で、部屋に入るとすぐに横になり休憩をされていました。夕飯は皆でBBQをしました。これまでの頑張りの労いも含め本当に楽しそうで、終始笑顔にされていました。寝る前に西田荘さんの計らいで、“かき氷”と“ポップコーン”をいただきました。これまで見せたことのない笑顔で皆喜ばれていました。



四日目： 朝はとても静かでした。こちら側が起こすまでしっかりと休まれていて、起きると元気に動き出されました。西田荘さんで朝食をいただき、雨が降りしき中、一斉にスタートしました。雨が降っている事に対して、誰一人文句や悲観されず、ただゴールを見つめて頑張ろうという想いを十分感じ取る事が出来、初日に比べて確かな成長を感じました。初日に劣らない雨量の中、一人一人が意識をし、注意を払い、皆を想い、走り続けました。昼食は初めて自分達で購入し、いただきました。この時は緊張から解放され、笑顔いっぱい美味しく食べておられました。午後雨足は止むことはありませんが、メンバーの意識は高く、ひたすら走り続けました。明石の街並みが見えてくると気持ちも昂り、足に力が入ります。そして、ゴールの指標である【明石海峡大橋】が見えると、声をあげて喜ばれていました。最後のコンビニで少し休憩を挟んだらラストスパートです。ゴールの岩屋港が見え、ついに戻ってきました。達成感より疲れの方が勝っており、あまり感動や達成感を露にされませんでした。それでも笑顔が漏れ、嬉しい気持ちがこちらまで十分に伝わってきました。フェリーに乗り、自転車を返却し、明石にて解散です。三日前の皆さんの表情とは全く異なり、逞しく、一段、二段お兄さん、お姉さんへと成長されている姿がそこにありました。



<キャンプ総括>

今年は五日間の予定を悪天候の影響で、四日間に減らし行いました。それでも終日天候は悪く、初日と最終日は雨の中走り続けました。事故や怪我はなく、無事に走り終える事が出来ました。結果的に同じ環境下で走る事になったのですが、メンバーの様子に雲泥の差を見ることが出来ました。初日はどこか浮わついた気持ちがチラホラ伺え、危ない場面も何度かありました。また、気持ちも疲れと比例し、落ちていき、終盤は皆無言で走り続けていました。それに比べ最終日は、出発前から掛け声や確認をメンバー同士が行い、走行中も体力面の確認や気持ちを上げる為の声掛けが見られました。雑談や談笑はされていませんでしたが、お互いを見ており、【言わずもがな】という関係が出来ており、安心して走り任せ、見ていられました。この四日間で一人一人にとって大きな成長があり、それを自発的に行動や発言として皆に伝えておられました。後日、親御様から、お子様が「楽しかった!!」と何度も感想を聞くと仰っていただきます。メンバーにとって楽しいことよりも辛い事の方が絶対に多いはずなのに、それでも楽しいと仰られる事に、キャンプで体験した事がしっかりと浸透し、沢山の学びや気づきを理解、会得されたと認識しています。最後となりましたが、開催日程変更により、沢山のご迷惑と悪天候によるご心配をお掛けした事に心からお詫び申し上げ、またその中にも関わらずご参加いただき、本当にありがとうございました。また一緒に淡路島を走りましょう!!

(竹中 哲郎)

しまなみロード

8月19日(木) ~ 8月22日(日)

IN しまなみ海道(尾道市マリユースセンター、みやくぼ石文化交流館)

	午前	午後	夜
1日目	尾道に向けて出発	向島出発 ユースセンター到着	振り返り
2日目	サイクリング(因島、生口島、大三島、伯方島、大島)		振り返り
3日目	今治市へ出発	今治市内散策	フェリー乗船、振り返り
4日目	関西に到着・解散		

一日目: 開催直前まで不安定な天候でしたが、当日は見事回復傾向になり、現地も悪天候なく走れそうです。尼崎から在来線を使い、早過ぎに尾道に到着しました。早く走りたいとウズウズしていました。レンタサイクルで自転車(相棒)を借用し、駅前広場にて講習を含めた練習を行いました。借りた自転車に慣れたところでついに出発です。一つ目の島“向島”へ渡船で渡り、各グループ走り始めました。グループで走る事に不馴れの方も多く、間隔が広がってしまったり、逆に狭すぎてぶつかりそうになったり、どのくらいのペースで走ればいいのか分からず遅くなってしまったりと状況が様々でした。しかし、皆無事に宿泊先の“尾道マリユースセンター”に到着しました。今晚はテント泊をしていただくので、皆で協力してテント設営をしていただきました。設営完了し、夕飯を済ませ、シャワーを済ませると、今回のキャンプで毎日していただく振り返りを行いました。振り返り方法として、今日一日の出来事の絵日記を作成し、それを基に翌日の目標や頑張る事を決め、それを絵日記にする『未来日記』を作成します。初日なので、グループによってはまだ深い話はされず、明日以降、深めていくようです。テント泊に少し興奮気味でしたが、徐々に静かになっていきました。

二日目: 夜中に少し強い雨が降ったようで、なかなか寝付けなかった方もおられたようですが、元気な声で挨拶をされていました。朝食をしっかりと食べ、テントを撤収させると、長い一日の始まりです。5つの島を渡り走ります。天候は非常に走りやすい気温で、皆快適に走っておられました。二日目からの昼食は支給されたお小遣いから自分達で購入してもらいます。それがとても楽しみなようで、お店に入られると目を輝かせながら商品を選ばれていました。各々お昼を済ませて午後からもひたすら漕ぎ続けました。途中、“サンセットビーチ”にて海遊びをするグループがありました。人気も少なく、ほぼ貸し切りで海上に浮かぶ滑り台などで存分に楽しまれていました。自転車を漕ぐ力も海遊びに使われていたようで、何名かは後半疲弊されていました。最後の島“大島”に入ると、この日の最大の難所として延々続く上り坂に挑みました。疲れたら休み、そして走りを繰り返し、二日目の宿泊地である“みやくぼ石文化交流館”に到着しました。さすがに体力も尽き、部屋に入るなり眠そうにされている方もおられました。長い一日を経た分、しっかりと振り返りも出来ており、皆で翌日の未来日記、目標を決めました。入浴、夕食を済ませ、就寝になるとあっという間に休まりました。



三日目： 朝は起床の合図があるまでこの部屋も静まりかえっていました。起床後は片付けや出発の準備を行い、朝食をしっかり食べ、昨夜出来きれていなかった振り返りを済ませました。そして今回の目的地である今治駅を目指しました。これまでに比べて距離は短いのですが、長い下り坂や4kmととても長い橋と難関が続きます。しかし、これまでに沢山走ってきた皆にとって、しっかりと意識されながら、楽しめている姿がとても立派でした。“来島海峡大橋”を越えると今治市に到着しました。ここまで来れば、しまなみ海道も大詰めです。市内に入ると交通量が一気に増え、車や自転車、歩行者に十分気を付けながら、ついにゴールの今治駅に到着出来ました。声に出して喜ばれる方や疲れが一気に出ている様子の方がおられました。タイミングもよく皆で揃うことが出来たので、全体写真を撮りました。その後、今治市観光をしに各グループ目的地に向かいました。今治城見学に向かったり、お土産を購入しに行ったりと、相談しながら各所を回りました。夕飯も自分達で考えていただきました。回転寿司に行ったり、レストランやフードコートで済ませたりしました。集合時間になり、駅前に戻ってくるメンバーを見ると、存分に楽しまれてきた事が表情から伺えました。駅前にてお世話になった相棒を返却し、バスに乗り東予港へ向かいました。バス車内では、やはり疲れていたのでしょうか、ほぼ全員休まれていました。港に到着し、初めてフェリーを見た方は驚き、乗船して更に驚いている様子でした。一段落すると入浴、振り返りを行い、グループによっては船内探検をされていました。船内、甲板共に驚いて、楽しまれていました。ただ、出港前には眠さが勝っており、布団に入り、すぐに寝入られました。



四日目： フェリーは大阪南港に六時前に到着しましたが、誰も気付かず、七時前に起床しました。起床後は眠たい体を懸命に動かされ、下船準備をされていました。船内で全体写真を撮りましたが、眠さが色濃く表れていました。下船し、朝食を済ませる頃にようやく目覚めてきました。最後の振り返りを行いました。最後の未来日記は【明日】ではなく、キャンプを通して学んだ事から『これから』の自分達を描いていただきました。これまでに何度も振り返りをしてきたので、場所問わず皆集中して振り返られていました。振り返りが終わると、後は帰るのみです。地下鉄、JRを経て、尼崎へ戻ってきました。到着するなり、緊張が解けたかのようにメンバーの表情は緩やかになっていました。全体解散後は別れを惜しみつつ、各地へ向かいました。



<キャンプ総括>

大変な時世の中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。沢山のご参加をいただき、心から感謝致します。前回の“淡路島ぐるりんロード”も然りですが、他のキャンプと大きく異なっている事があり、【おふざけ=命に関わる】事です。リピーターの方は周知されていますが、初めての方々は少し浮わついた気持ちで始まります。その気持ちをしっかりと地に付け、緊張を持っていただく事からキャンプは始まります。なのでスタート前の講習でその辺りをしっかりと伝えました。しかし、それだけではもちろん不十分で、実際に走ってみると、普段走っている方こそ調子に乗って飛ばされたり、蛇行運転をされたりします。もちろんグループリーダーは注意喚起しますが、一緒にリピーターの方もしっかりと伝えていただけます。本当に頼りになりますし、有り難いです。リピーターの方々はキャンプの“楽しさ”はもちろんご存じですが、同時に【怖さ】も理解されているので、そうやって欲しくないために他のメンバーに伝え、守り、支えられます。身近な存在からの言葉はしっかりと伝わりますので、グループの安定感が大いに増します。こうした方々の姿を見て、憧れを持ち、次回ご参加いただいた際は、是非とも『伝える側』としてお力添えいただければ、そこに確かな成長が生まれます。それこそキャンプ冥利につきます。そうした伝え続けられていく『伝統ある素敵なお場』としてキャンプをこれからも展開して参ります。

(竹中 哲郎)

富士山！万歳！！

8月24日（火） ～ 8月27日（木）

IN 国立中央青少年交流の家～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着・八ガキ書き
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・プール	関西に向け出発・解散	

一日目： おはようございます！いよいよ、“富士山！万歳！！”のスタートです。前日までの悪天候が嘘かのように当日は晴天で、富士登山に天気も味方をしてくれている様です。京都駅に集合し、車に乗り込み、富士山の麓にある施設へ向かいます。車内では、富士山に向けてどんなことをしていたのか、いよいよ富士山への意気込みなどの話で盛り上がりました。富士登山講習会で配られたノートを見返しながら、各々富士山に対してイメージを膨らませておられました。談笑で盛り上がっていると、あっという間に静岡県富士宮市に入りました。施設へ近づくにつれて富士山が見えてきました。富士山を目の前に、そのスケールの大きさと迫力に、「大きい」、「あれを登るのか…」と、それまで車内で少し浮き足立っていたメンバーも気を引き締め直したようでした。施設へ向かう途中、登山に必要な行動食を買いに行きました。講習会で学んだことを活かし、自分で量を考え購入されていました。施設へ到着すると、それまで雲に隠れて全体が見えなかった富士山が、みんなを出迎えていると言わんばかりに姿を現しました。先程までの気持ちとは違い、「明日はアレに登るんだ」とみんなの気合も充分です。施設の方から、施設の使い方等のオリエンテーションを受け、部屋へ入室しました。入室後、富士山へ持っていく荷物を分けました。自分のリュックのサイズに対して、持っていく量を考え、みんなで分担しました。その後、夕食と入浴を済ませ、山小屋で書くための葉書の準備をしました。いよいよ、明日の朝出発します。富士登山講習会から今日までの準備をしてきて、自身がついているメンバー、不安な表情をされているメンバー、気持ちはそれぞれでした。寝る前に、富士登山を終えた自分へ向けて手紙を書きました。登る前の率直な気持ちを真剣な表情で書き残されておりました。就寝準備をそれぞれ終え、明日からのために早めに消灯しました。



二日目： 朝から少しソワソワされたメンバーの表情が見られました。食堂で朝ごはんをいただき、荷物の最終の確認をします。荷物の準備をしている段階ではわかりませんでした。いざ持ってみるとふらついたり、リュックのバランスが悪かったりしていました。最後の最後まで確認を怠らず、準備バッチリです。食堂でお弁当を受け取り、富士山へ出発しました。麓からはバスに乗り換え、まずは五合目に到着しました。五合目は雲の中にあり、幻想的な世界が広がっていました。もう既に酸素も薄くなっているため、お弁当を食べながら体を慣らしていきます。いつもは少食のメンバーも体力をつけないと意識でしっかりと完食されておられました。昼食を終え、今回のルートを皆で確認しました。富士宮ルートを経由し、御殿場ルート八合目の【赤岩八合館】が今日のゴールです。



皆で声を合わせて掛け声と共に登山はスタートしました。序盤は階段が続き、息が上がるメンバーも多くおられましたが、六合目までは気持ちを保ち、皆で声を掛け合いながら難なくクリアです。六合目から七合目に差し掛かってくると、空気も薄くなり、頭痛を訴えるメンバーが出始めました。そんな時に、勇気づけるのが他のメンバーです。声をかけ、足を進め、「一緒に登ろう！」と何度も励まし合っている姿は本当に素敵な姿でした。七合目から徐々に皆の足取りも重くなっていきました。八合目に着く頃には気温も下がり、気持ちもだいぶと落ちていました。富士宮ルートから御殿場ルートへと経由する際、とても綺麗な夕日が現れました。そこまで気持ちが落ちていましたが、その光景を見て、「頑張ろう！あと少し！！」と、足を進めることが出来ました。御殿場ルートに入ると蛇腹道が続きます。山小屋は見えているはずなのになかなか着きません。心が折れそうな時、赤岩八合館から声が聞こえてきました。そのエールに呼応するように最後の一踏ん張りを見せていました。無事に赤岩八合館に到着し、安堵の表情を見せるメンバーが多くおられましたが、ここで気を緩めてしまうと疲労や高山病になりやすいので、気持ちを切らさないよう皆んなで声を掛け合い、適度な緊張を保ちつつ過ごしました。夕食のカレーをいただき、昨日準備していた葉書を書きました。書き終えたメンバーから就寝や明日の準備を進めます。初めての山小屋にソワソワとしておられましたが、明日に挑めるように申し上げますみなで気持ちを整え、翌日は夜明け前に山小屋を出発するために、終えた方から寝床につきました。



三日目： 夜明け前、前日の登山で大いに疲れていましたが、皆素直に起床することが出来ました。他の宿泊客は休まれているので、なるべく物音立てないように暗い中、出発準備をしました。しっかりと防寒対策をして山頂を目指します。暗い夜道の為、ヘッドライトの明かりを頼りに足を進めます。山頂に徐々に近づいているものの、なかなか付かず、疲れも見え、弱音を吐いてしまうかと思いましたが、皆想いは一つ、『山頂に行きたい』と強く思っていた為、誰一人として吐くことはありませんでした。皆の頑張りからご来光より前に無事に山頂に到着しました。山頂の気温は想像していたよりも低く、登頂出来たという喜びよりも寒さが勝っていたように思います。ご来光を拝める位置に移動し、その時を待ちます。夜明け前に起きた事と前日からの疲れも重なり眠ってしまいそうになるメンバーもおられましたが、太陽が昇ってくると皆釘づけになっていました。天候にも恵まれ、とても綺麗なご来光を拝むことが出来ました。ご来光を拝んだ後は、富士山最高峰【剣ヶ峰】に挑戦しました。「辞めておこうかな…。」とつぶやくメンバーもおられましたが、それよりも『皆で山頂に！』という想いが勝ち、全員で挑戦することが出来ました。剣ヶ峰の石碑で記念撮影を済ませた後は、富士山頂限定のお土産ショップに立ち寄り、登頂記念にそれぞれ思い思いの物を購入しました。大方済ませると下山開始です。二日間に分けて登った富士山を、今日中に下山しなくてはなりません。名残惜しく山頂に別れを告げ、ひとまず赤岩八合館を目指しました。下り坂に恐怖を感じ、少しゆっくり目の足取りとなっていました。が、無事に赤岩八合館に到着し、朝ごはんをいただきました。朝早くから動いていたので、少し休憩もしてから下山しました。下山は、御殿場ルートを六合目までおり富士宮ルートへ戻ります。御殿場ルートの途中にある【大砂走り】を元気よく駆け降り、行きとは

打って変わってかなりのハイペースで降りていきました。少し険しい道もなんなく超えてゆき、富士宮ルートへ戻ってくると、自然と笑みが溢れ、気持ちも余裕を感じさせられました。そして、ちょうど昨日の登山開始から 24 時間後に登山口に到着し、大きな怪我や体調不良なく全員でゴールしました。メンバーの表情は、「やり切った!」、「頑張った!」と晴れやかでした。五合目からのバスでは、疲れが一気に出てきたのでしょうか、皆休んでいました。麓で車に乗り換え、施設に戻るのですが、その途中にスーパーに立ち寄り、無事に登山を終えたご褒美アイスを買いました。いつも食べるアイスでも特別で、満面の笑みが伺えました。施設へ到着後は荷物や衣類の片付けをしました。そして入浴を済ませ、食堂で夕食をいただきました。入浴も夕食も、疲れた体に染み渡り、癒されました。夜は振り返りを行いました。初日の道中の写真から、今日の施設へ戻ってくるまでの写真を見返しました。登山前の浮かれている表情や登山中の辛い表情、ご来光を見ている表情、戻ってきた時の安堵な表情、沢山の表情とその時の気持ちを振り返りました。入浴前に、みんなには宿題が伝えていました。富士山を登ってみて、【学んだ事】、【新しく気付いた自分】、【来年も登りたいか】をそれぞれに考え、写真を見返した後に発表しました。一人一人が感じた想いを皆で共有しました。明日、関西へ向けて帰ります。就寝前に荷物の整理をしてから寝床につきました。



四日目： 疲れもでていたため遅めの起床となりました。先に朝食を済ませ、お世話になった施設の掃除をしました。富士登山で得たチームワークを活かし、協力をし、テキパキと掃除を進めていきます。施設から荷物を運び出し、退所を済ませ、お世話になった施設と富士山に御礼を伝え、関西へ向けて出発しました。途中、お土産を買うためにSAに寄りました。登山中よりも真剣なのではと思わせる目つきでお土産を選ばれておられました。お土産の購入を終え、徐々に関西へ向けて近づいていきます。次の休憩で、昼食を済ませました。最後の全員での食事です。食べたいものを注文し、楽しい雰囲気ですが、どこか寂しさも漂わせていました。帰りの車内では、DVDを観ました。その劇中に富士山が出てきました。富士山が出てくるたびに反応しておられ、しっかりと意識付けされていました。関西に戻ってき、京都駅に到着し、全体解散です。「また来年ね!」、「また会おうね!」と言葉を交わし、お別れをしました。その後、尼崎へ向かうのですが、最後まで手を振り別れを惜しんでおられました。

<キャンプ総括>

この度は、“富士山!万歳!!”にご参加いただき誠にありがとうございました。今回、私も初めての富士登山であって、メンバーの気持ちを一番近く感じる事が出来たのではないかと思います。「登れるかな」、「大丈夫かな」と、私自身とても不安でした。きっとメンバーも同じく思っていたのではないのでしょうか。しかし、こうも思いました。「みんながいるから登れる!」、「メンバーに弱いところなんて見せられない!」この想いもきっとメンバーが思っていたと感じました。だからこそ、今回全員で富士山最高峰の【剣ヶ峰】まで登り切ることが出来たのだと思います。『一人では決して登れなかった』という事を、メンバーと強く共感出来たことを本当に嬉しく思います。富士山はずっと皆さんの挑戦を待っていることでしょう。再びみんなで挑戦できる日を楽しみにしています!

(橋本 里佳)

<この夏を終えて…>

【再会の場】

今年は、昨年よりも多くのキャンプを実施出来、例年よりも多くの参加者の皆様とかけがえのない経験を出来たことを、心から嬉しく思います。キャンプは、一期一会の場であると今年まで思っていました。しかし、私にとって今年のキャンプは、“再会の場”でありました。冬キャンプや春キャンプにご参加いただいた方、二年前にご参加いただいた方など、集合場所で「久しぶり!背が伸びたね!」という会話からスタートすることが、非常に多くありました。メンバーから「チーズ!」とリーダー紹介をする前に名前を呼ばれることも多く感じる様になりました。それだけ、「TOP のキャンプにまた来たい!」と思い、ご参加いただいているのだと実感する機会にもなりました。また、メンバー同士も再会を果たしている場面もありました。メンバーが違えば全く違うキャンプにもなります。ですが、この TOP の場所は、毎年必ずやってきます。そのことがリーダーとの再会、メンバー同士の再会の場としてあることに、とても誇らしく感じました。今年ご参加いただいた皆様にも、またキャンプで再開出来ることを心より楽しみにしております。

(橋本 里佳)

【長期キャンプで得られるもの】

今年の夏キャンプを振り返って、特に印象に残っている事は“ロングアドベンチャー”です。このキャンプに参加し、長期キャンプならではの面白さを知りました。“ロングアドベンチャー”は、TOP のキャンプの中で最も期間の長いキャンプです。メンバー達は長い間行動を共にし、二日間や三日間のキャンプでは得られない経験を得ることが出来ます。長期キャンプでは【生きる力】が特に育まれると私は考えます。例えば、自分で身の回りの整理をしたり、グループで食事を作って食べたりすることを通して【自立性】や【社会性】が育ちます。また、長く一緒に居るとお互いの気持ちがぶつかったり、グループで話し合っただけで折り合いをつけたりする場面も増え、【コミュニケーション能力】や【人間関係を築いていく力】などが培われていきます。実際に参加してみて、長期キャンプは、楽しかったという思い出だけに留まらず、こうしたその後の生活に生きる成長を得られると感じました。リーダーとしても、メンバーの葛藤や成長を間近で感じながら、自身の関わりなどを見つめ直し、一緒に成長していける良い機会だと感じました。“ロングアドベンチャー”は参加者全員が家族のように一つになれるキャンプです。また来年も、沢山のメンバーとの出会いを楽しみにしたいと思います。

(生田 千恵)

【夏まるかじりツアーを振り返って】

今回の夏まるかじりツアーでは、私自身が初めてディレクターとしてキャンプに参加させて頂きました。当キャンプにおいて、初めてお会いするメンバーが多い中でしたが、皆、本当に明るく、沢山の元気を頂きました。野外炊飯、焼板、キャンプファイヤーと楽しいプログラムが盛り沢山な中、常に【グループ活動】として行動していただきました。初めはどこかよそよそしい関係でしたが、時間が経つに連れ、仲間意識が芽生えてきていた様子が伺えました。そして、“ただ楽しい”という事だけではなく、楽しい先には

何が待っているのか、今我慢する事で更に楽しい事が待っている事を考え、共有する事が出来た二泊三日間だったと感じます。一日目からは天候に恵まれず、楽しみにされていた川遊びが中止となってしまいましたが、代わりに実施しました屋内での活動では、グループ以上に、全体で交流会やゲーム、名札作りを楽しまれていました。三日目は大雨に見舞われましたが、キャンプファイヤーを外で行う事が出来、野外炊飯や焼き板など要のプログラムは全て実施することが出来ました。空き時間があればダンスやゲームを行い、メンバー全員が精一杯楽しむ事が出来た“夏まるかじりツアー”だと思い、満足のいく締めくくりが出来たと感じております。

(山川 一咲)

【根性論という昭和な発想】

“淡路島ぐるりんロード”を実施中、私が「努力と根性で乗り切れ!!」と発破を掛けた際に、あるリーダーから、このような事を言われました。「出た!昭和の発想…。」この瞬間に私は時代に取り残されている!?と考えさせられました。今のご時世は【悟り世代】と言われています。調べればおおよその事は分かりますし、科学と理屈にかなった動きを求められます。今年のオリンピックで日本がメダルラッシュとなった理由の一つに、ひたすら練習を繰り返す“努力と根性”で挑んだのではなく、科学的根拠に基づいたトレーニングの結果と言われています。【根性論】は現代には必要ないのかもしれませんが、しかし、【科学的根拠】は、全てを数値やものさしで測った結果であります。我々が対象としているものは【自然】と【人】です。数値で測定出来、対応出来る事も多いですが、測る事の出来ない、未知なる事も多々あります。それが野外活動の魅力であると考えています。そしてそれを乗り越える力こそ、人が底力として持つ【根性】だと認識しています。【科学と根性】を兼ね備えたキャンプをこれからも展開して参ります。我々が行うキャンプで、“淡路島”や“しまなみ”、“富士山”など、チャレンジプログラムがあります。これからも「努力と根性!!」と訴えて参りますので、どうか昭和な発想に今後ともお付き合いくださいませ。

(竹中 哲郎)

最後に…

今年の夏は昨年に引き続き、対策や予防を徹底しながら、且つキャンプ本来の魅力と楽しさを削ることなく実施するために、皆様と連携を取り、催行致しました。結果、大きなケガや体調不良がなく無事に終えることが出来ました。心より御礼を申し上げます。ただ、8月の終盤に【緊急事態宣言】が発出されてしまい、最後のキャンプを催行することが出来ませんでした。楽しみにされていました皆様には心より深くお詫び申し上げます。来年こそはよりパワーアップして実施出来るように努めて参ります。最後となりましたが、夏キャンプにご参加いただき、誠にありがとうございました。今後ともトータルアウトドアプランニングを宜しくお願い致します。再び皆様にお会いできる時を楽しみにしております。